月曜日、キモチ着替えてシャレてみた。

KOBE Stylish DAY

STYLE BOOK 2015

神戸
スタイリッシュ
DAY
KOBE Stylish DAY

神戸で働いている方へ

毎週月曜日は
いつもより少しだけオシャレして
職場に向かおう

1973年、神戸は全国に先駆けて「ファッション都市宣言」を行いました。
宣言から40年となる2013年に、
ファッション都市・神戸の新たな取り組みとして始まった「神戸スタイリッシュデー」。
毎週月曜日に、それぞれの職場環境におけるTPOに配慮し、
いつもより少しだけオシャレに気を配って働く「かっこいい大人」をめざしましょう、
という少しユニークな活動です。

「・・・突然オシャレしろって言われても、どうしたらいいかよく分からない」
そんなあなたのために、
神戸スタイリッシュデーでは、メンズファッションを中心に、
市内参加店舗からシーズンのトレンドを取り入れたおすすめスタイルを提案しています。
次ページから、おすすめスタイルや、着こなしノウハウをご紹介。
いつものスタイルにちょっとだけ変化をつけて、
気持ちも引き締めて、職場に向かいませんか?

神戸スタイリッシュデー公式Facebook

神戸スタイリッシュデー実行委員会ではこのたび公式Facebookを開設し、神戸で働く「自分らしくカッコイイ人」を取材・紹介しました。それぞれのTPOに合わせて自分らしく、カッコ良くおしゃれを楽しむ姿はには多くのおしゃれのヒントがつまっています。神戸の街でさらに多くのビジネスマンが自分らしく、カッコ良い毎日を過ごしていただけることをこれからも願っています。

神戸スタイリッシュデーアンケート

神戸スタイリッシュデーHPでアンケートに答えてプレゼントをもらおう!

ただいま神戸ファッション協会「神戸スタイリッシュデー」ホームページではビジネスマンのおしゃれに関するアンケートを実施しています。アンケートに回答いただいた方の中から抽選で20名の方に商品券2,000円分をプレゼント。

詳しくは　http://kfo.or.jp/40th_ani/stylishday/　からエントリーください。

申込締切　4月30日(木)24時まで

※賞品の発送をもって発表にかえさせていただきます。

スタイリッシュトーク「自分らしくカッコよく」

MEN'SCLUB 編集長／戸賀 敬城さん

最近ハマっているのはスーツのベーシックを知った上で自分ならではの遊びを加えた装いだ、と語ってくれた戸賀さん。本日のコーディネートは、色味をツートーン(同系色のものはワントーンとカウント)、もしくはスリートーンまでに抑えるというファッションのセオリーに乗っ取っりながらも、パンツ丈の遊びを加えたもの。グレースーツ×ホワイトシャツ×ブラックの艶感のあるネクタイのモノトーンコーデの差し色にグレイッシュパープルの靴が美しい差し色になっています。遊びが多すぎるとコスプレになってしまう、という戸賀さんの印象的な一言にも繋がるクラシカルな装いです。編集者のビジネスシーンには明確なドレスコードが無い中、ご自身の好きなスタイルを見つけて装ってきたという戸賀さんは、最近、裏方稼業だった自身の編集者としての立場が変化し始めたのを感じるそう。洋服選びから垣間見えるセンスや心配りがビジネスチャンスにつながっていく様子は戸賀さんの著作“結果を出す男はなぜ「服」にこだわえるのか”の中で詳しく語られているそうなので、興味のある方はぜひ手に取ってみて。以下にはファッショントークで語られたことを内容ごとに簡単にご紹介!すぐに取り入れることのできるアドバイスも見つかりそうですよ。

■ ジャケットについて

ジャケットのトレンドはラペル(襟)の幅によく顕れるものだそう。ただ、トレンドを追うことはさほど重要ではなく、戸賀さんの指南によると、このラペルは着る人の顔の印象を決定づける大切なもの。例えば太いラペルにはvゾーンを際立たせ顔を強調する効果があるので、顔の大きさが気になる方は選ばないほうが無難。逆に、堂々としたパワフルな印象を与えたい方はラペル幅が太めのものを選ぶとベターです。見ごろについては、ジャケットの釦がギリギリしまる位のサイズを選ぶと体のラインがスッキリ見え、スタイルよく見える効果が期待できます。

■ 思い立った!明日、お洒落になりたい!について

センスは1日にしてならず。どうしても短期戦にて印象を変えたい場合は、ヘアスタイルを変えよう。

■ ネイビー×ブラウンについて

アズーロ エ マローネ、またはマローネ エ アズーロと、イタリアでは呼称さえ持つ定番の色合わせが空色と栗色。ひいては昨今流行のネイビー×ブラウンもその範疇となるようです。垢抜けた雰囲気を持つこの色合わせですが、日本人(日本人の肌の色、といったほうがいいかもしれません)とそのビジネススタイルにはベストマッチ…とも言えない場合もあるようです。トレンドに合わせてネイビーにはブラウンを合わせたい…ところをグッと吟味しなおして、あえてのブラックをチョイスして相性を見てみるのも良さそうですね。

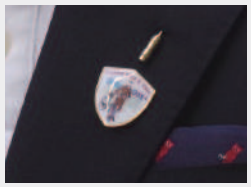
戸賀さんのブログも要チェックです!
http://ameblo.jp/togablo/

神戸に憩う、紳士の休日

神戸市 副市長／鳥居 聡さん

家族と過ごすオフとはまた違った土曜日。少しオフィシャルな向きもある休日には控えめな色使いと、ジャケットを軸にしてコーディネートする、と語ってくれた鳥居副市長。ボタンダウン仕様のポロシャツ、そしてパンツには濃いめの色合いのジーンズを。キチンと感もありながら適度な抜け感を持った休日スタイルです。ポケットのチーフと、お嬢様からのプレゼントだというアーティスティックかつ個性的なラペルピン、それぞれ深みのあるカラーが深まる季節とピッタリ。重たい印象になりがちな秋冬の洋服素材に、ツヤ感のある小物を合わせたテクニックが素敵ですね。

神戸スタイリッシュデー参加店の石田洋服店を営む石田原さんと。
お二人とも、とてもお洒落に決まっていました。



上質アイテムを着こなす技ありコーデ

株式会社マキシン 営業部統括部長／柳 憲司さん

ファッションアイテムを提供する側でもあることから、“つくりて”の気配を感じる上質なものには特別な、例えば、次の世代にも伝えたいような想い入れが涌く…と語ってくれる柳さん。本日のビジネススタイルは、オーダーメイドならではのキチンと感が好印象なネイビーのスリーピースとネーム入りシャツを基本に、スイートなピンクのネクタイとポケットチーフを差し色にした大人の遊び心が感じられるコーディネート。クールビズの季節には特に、ネクタイの代わりとして活躍するというラペルピン。帽子を愛する柳さんらしく、選ぶときには帽子にまつわるデザインをチョイスすることが多いんだそうですよ。オーダーメイドのハットに施されたスワロフスキーの透明感ある輝きと、ラペルピンのシルバーの輝きのマッチングもとてもおしゃれです。

オーダーメイドのハット
ネクタイの小花柄とハットリボンのドット柄の統一感が効いている

オンとオフの装いは切り替えが肝心!

神戸市 産業振興局 経済部 商業課 商業振興係長／井関 和人さん

休日は、「勤務中とは雰囲気が違いますね。」とよく言われます、と話してくださる井関さん。赤系のシャツと鞄、白いパンツ…難易度が高めのアイテムをサラリと着こなす立ち姿が印象的です。ファッションの参考にしているものは…?と伺ったところ“奥様のセンス”と笑顔でお答えをいただきました。…一緒にショッピングに行き、服装など選ぶことが多いそうですよ。

素材感が美しい革(レザー)製品、綺麗なグリーンの財布は神戸元町生まれのレザーブランド“STUDIO KIICHI(スタジオキイチ)”で購入したものだそう。マットな質感が大人な雰囲気の赤い鞄と共にコーディネートを引き立てる。

ファッションから伝わる心配り

神戸パートナーズ法律事務所 弁護士／日野 哲志さん

本日のビジネススタイルは、ダークな印象になりがちなグレースーツに明るめのオレンジ色のネクタイ、ブラウン系の眼鏡と靴がポイントの暖色系グラデーションカラーをあわせた晴れやかな秋らしい装いです。職業柄、爽やかで真面目な印象を心がけていると語ってくれる日野さん。キチンとサイジングされたスーツやシャツから、対面する人への“こころくばり”がファッションにも現れています。また、神戸の長田区でつくられた靴や、旅行先のナポリで購入したというネクタイ、御祖父様の代から60年ほど使い続けているという年代物の腕時計色や形だけでなく、時間や想い、歴史が刻まれたこだわりのアイテムを取り入れたファッションがとても素敵です。

シャツの袖口には神戸らしい“イカリマーク”が

ライフスタイルを写すコーディネート

TELECRANE JAPAN 取締役、ホーブスリリーフクリームジャパン、ウォッチデコ 代表者／頭井 秀市さん

職業柄、様々な人と出会う機会があるという頭井さん、ビジネススタイルは特にスーツにこだわらず、場に応じることもあえてしない、自分を表現しえるものをあえてチョイス。お若いころにはかなり個性的なファッションにも挑戦されたそうです。年齢を重ねるうちに、ご友人から「ギラギラしなくなったね」と評されることもあるという頭井さんの本日のビジネススタイルは、重たい印象になりがちな秋ファッションを爽やかに着こなしたモノトーンコーデ。鮮やかな色合いの腕時計と、落ち着いたトーンのカーキの靴、グリーン系の差し色が爽やかさUPに効いています。腕時計は、2012年から趣味で参加し始めたというホノルルトライアスロンに昨年ご参加の際、何か記念になるものを…と探して現地で購入したというGaga Milano(ガガミラノ)のペアウォッチ。奥様とペアで楽しまれているアイテムなんだそうですよ。

高価な一点モノをつけっぱなしにするのではなく、想い入れのあるものや、気に入ったものを日々、選び、取り入れている

素材への想い入れ、というスタイル

自営業／西島 功さん

“ツイード”素材との出会いにはちょっとしたドラマが会った!と語ってくれる西島さん。学生時代、趣味でチベット旅行をした際、湖で出会った漁師が着用していたのが“ツイード”のジャケットとパンツ。チベットで“ツイード”!?と驚き調べたところ、元々はスコットランドの漁師が身に着けていた素材で、その丈夫さから今ではワールドワイドに、働く人を支えていることを知ったんだそう。それ以来、日本で持たれがちなイメージとは少し異なった実用性の高い“ツイード”のトリコに。お洒落でしわになりにくく、かつ丈夫、仕立て直せば子供の世代まで伝えられる…と話す西島さんからは溢れんばかりの“ツイード愛”が…事業主となった今では、ビジネスシーンでも思う存分“ツイード”を楽しまれているそうです。

華のあるブリティッシュスタイル

サラリーマン／横山 茂樹さん

ブリティッシュスタイルをテーマにした本日のコーディネートは、サイズ感がお洒落なストライプ柄のネイビースーツと、ワイドカラーのシャツ、そしてレジメンタルのタイ、タイと同系色のポケットチーフを合わせたもの。綺麗な紫色と明るいブラウンの靴が冴えています。ほんの少し丈を長めにしたサイドベンツのジャケットと、(向かって)右下がりのレジメンタルタイのチョイスが本格的です。洋服のリフォーム専門店にお勤めの横山さんからは、流行遅れになってしまった洋服でも、リフォームをすることによっておしゃれに長く着ることができますよ、とメッセージもいただきました。

装うとは、その存在と共に過ごすこと

株式会社 志鳳(しほう) 取締役／友野 隆光さん

時計店の接客、営業、メンテナンスまで、全て手掛ける蝶ネクタイ姿の友野さんは、見る人がハッとするような…何かワンポイントひねりのあるコーディネートがお好みだとか。店舗に立つ際には特に自らを動くマネキンと位置づけて、時計も含めたコーディネートをお客さまに見てもらうつもりで服装を選ばれるそうです。本日のスタイルは、ベルト、腕時計の革ベルトと、3種の革を組み合わせたイタリア製の革靴の高級感ある「黒」がポイント。小物の色を合わせることは一般的ですが、時計の色合わせプラスすることでさらに統一感が増して素敵ですね。最後に、時計は“時を刻むもの”の意味合いからはすでに離れているけれど、たぶん誰よりも、何よりも、自分と一緒に過ごす時間が長い存在。“つける時を楽しむもの”が時計です。メンテナンスをすれば世代さえ超え、共に歩み続けることもできるアイテムですよとメッセージをいただきました。

機能性 × ファッション性 × 楽しさ

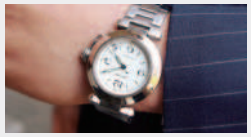
株式会社 毛利マーク 取締役／藤井 淳史さん

綺麗な色使いが印象的な装いや、ついつい目が行くアシンメトリの髪型から「アパレル関係の方ですか?」と聞かれることも多いという藤井さん。ビジネスファッションは、様々な業務をこなすため、動きやすさが必須。汚れてもOKだけど、ジャケットスタイルにも相性の良い服装をチョイスされているんだそう。本日の装いは、ご自身でデザインされたというポートタワーモチーフのTシャツ、折り返せば反射する素材が表れるサイクリング用パンツとトリコロールカラーのズボンバンド、車のシートベルトを素材にした鞄…藤井さんお好みのgimmik（ギミック＝特殊効果や相手の興味をひく効果）があるアイテムがズラリ。そして、それぞれのアイテムはただ身につけるのではなく、Tシャツならば首元から冴えた水色を覗かせて…鞄にはオリジナル含めたピンバッジコレクションをあしらってスタイリング。ワクワクするようなアイテムを身につけ、自分らしいスタイルでビジネスに臨んでいらっしゃる姿が素敵です!

熱きビジネスマンの優しい装い

株式会社シンエンタープライズ 営業企画部長／佐久間 健さん

佐久間さんのお仕事は、広告に関わる全ての事。様々なクライアントの"想い"を例えば、広告やイベントなど、最適な形で具現化すること。"想い"を持ったクライアント自身にも把握できていない理由や事情もあるそうですがその"想いの具現化"プロセスも重要な商品。何かもんもんとした時に、さくちゃんと気軽に呼んで貰える"スーパーマン"になればと笑顔で語ってくれる佐久間さん。ネイビーのスーツに、明るめブラウンのニットタイと、渋い色味のカーキの革靴が好相性の本日のビジネススタイルには、その装いを引き立てる"想い"を大切にする佐久間さんらしいアイテムがちりばめられています。まずは、働き始めてすぐに貯金をはじめ、石の上にも三年と、やっとの思いで迎えた勤続三年の21歳のときに購入、それ以来ずっとご愛用というPhoto2枚目の腕時計。そして、肌身離さずつけているという刻印の入った二本の指輪。左手薬指の根元に嵌められたゴールドの一本には、3人のお子さんが誕生するたびに祝って名前を刻まれ、それを守るように、上から嵌められた二本目のシルバーリングには奥様のお名前が彫られています。楽しいお人柄を映すような、ポケットチーフとお揃いの迷彩柄ストールには、ディズニーストアで購入した一品がチョイスされていて、その柄は、よく見るとキャラクター達が隠れているシカケ!お子さんもお気に入りの一品だそうですよ。(さすが、こうベイクメン副実行委員長!)装いからビジネススタイルだけでなく、ご家族への想いが溢れる"お父さん"の一面までが伺える、優しく素敵な装いです



己を鼓舞する色を身にまとい…!

ミュージシャン・タレント／クマガイタツロウさん

神戸の誇るロックンロールバンド"ワタナベフラワー"のボーカルを務めるクマガイタツロウさん。はじけるような元気な印象のクマガイさんビビッドな赤色は好きな色…という訳ではないそうで、ワンマンバンドと思われがちだったワタナベフラワーのメンバーそれぞれにテーマカラーを作った結果なんだそう。周囲にもパワーを与えたい!そのためにはまず自分がいつもパワフルでありたい。そして選んだ赤という色。今では、例えばライブ中…自らの身に着けた"赤"が視界に入るたびなんとなく発奮させられるようなそんなパワーカラーになったんだとか。少し強引と思われてもいいから、絶対に観に来てくれるお客さんを楽しませたい、と語ってくれるクマガイさん。そのパワーの源の一つはこの"赤"だったんですね。バンドマンらしいイデタチには、他にもたくさんのハートフルなエピソードが…ジャケットはお義母様が毎年クマガイさんのお誕生日に合わせて仕立ててくれる特注品。(文章の途中ですが、to お義母さま 今年の分が届いていません…とメッセージお預かりしました。) ベルトはファンの方から「とうとう見つけたで!」というコメント付きでプレゼントされたもの。トレードマークの赤いメガネはグッズとして販売もしていたという一品。ライブ後には、ファンの子供たちがみんなこのメガネをかけてクマガイスタイルに…なんてこともあったそう。お仕事柄、一般的なビジネスシーンとは違うはずですが、仕事のオン・オフを装いで切り替えることや、自分を応援してくれるそんな誰かの気配をいつも感じられるようなアイテム を身に着ける…そんなスタイルにはマネしてみたくなるような、アイデアがたっぷりです。最後に、毎週どこかで必ずライブをしているという新アルバムをリリースしたてのクマガイさんが裏話を披露してくださいました。ライブ会場のお客さんの中に可愛い娘ちゃんを発見すると、ついついジャケットを脱ぎ、眼鏡をはずし、いい男モードに入る…んだそうですよ。こんなオン・オフまで装いに託すとは…流石です!

魅せる!メガネコレクション

株式会社 視正堂眼鏡店 代表取締役／重本 崇宏さん

メガネ店の3代目店主を務める重本さんのお仕事は、販売員、修理、営業、バイヤー…などなど。ビジネスファッションは働きやすいものが基本で、ジャケットは特に動きやすいものを選ぶことが多いのだとか。今日のコーディネートは自らバイヤーとして買い付けたという"元(GEN)"ブランドのバイカラーフレームのメガネがポイント。イエロー系×ブルー系の統一感あるスタイルには、メガネモチーフのピンバッジと蝶ネクタイ…重本さんらしい遊び心溢れるアイテムがプラスされています。元々、コレクター癖があったそうで、幼少時代のプロ野球カードに始まり、Tシャツや、足を運んだライブイベントのDMに至るまで様々なものをコレクションしてきたという重本さん。今では、お仕事柄メガネがだんだん増え、その数は既に10本以上!シーンやコーディネートに合わせて、例えば アウトドアな一日にはスポーツタイプのもの、 装い全体の色味が少ない日には赤色など鮮やかな色味のフレームのものをチョイス。紫外線が強い環境下で遮光タイプに変化する優れものもあるそうで、眼鏡コレクションはいつも、ファッションにも健やかな目のためにも一役買ってくれるそうですよ。

職人の技で作られている"元"のメガネは、世代を超えたファンに愛されるブランド。元町・三宮ではここでしか購入できないそう。手ぬぐい生地を入れ込むなど趣向を凝らしたフレームはまさに作品。

小学生のお子さんはパパ専属のスタイリスト

株式会社まんぼう、株式会社神戸サンソ 代表取締役／岡野 洋太郎さん

病院内などの“酸素”を扱うという岡野さん。お仕事柄、スーツはブラックやグレーなどの控えめな色合いのものをセレクトすることが多いそう。本日の装いは、ご自身のお好みだというフィット感ある3ピースのスーツに、ドット柄のネクタイとポケットチーフを合わせたシックなスタイルです。2人のお子さんのパパでもある岡野さんは、忙しいビジネスライフの中で、特に平日は、家族団欒の時間が取りにくいそう。けれどその分、ホッとする時間は朝!出勤の時間はお子さんたちと合わせているんだとか。ほとんど毎朝、もちろん取材日当日も…小学校1年生の娘さんが選んでくれたネクタイで出勤されるんだそうですよ。また、アンティーク風のカフスは小学校5年生になる息子さんが、カフス好きのパパのために選んだ一品で、そのモチーフはなんと“ポケモン”!お子さんのセンスを上手く取り入れて着こなすスタイルがとても素敵ですね。

ファッションの信条はこだわらないこと!

株式会社 阪神総合研究所／番匠 祐貴さん

不動産、損害、生命保険を扱う番匠さんは、老若男女、さまざまな年代のクライアントに会うというお仕事柄、ブラックやネイビー、グレーなどの落ち着いた色味のスーツで身嗜みを整えることが多いそう。本日の装いは爽やかな印象のブルーのストライプに、秋らしいイエロー系のタイを合わせたコーディネート。ふんわり纏った香りの装いも伴って、ご自身の狙い通り、清潔感ある爽やかな印象にキマッています。ファッションにはこだわらないことが信条と語ってくれた番匠さんですが、スーツのサイズ感はお見事。ショルダーラインも美しく決まった本日のスーツは、購入のたびにサイジング…しているわけではないそうで、バーバリーのブラックレーベルのものなのだそうで、ご自身の体型にピッタリあったブランドなので重宝するのだとか。自分にあったブランドを見つけることも、素敵なスタイルの第一歩なのですね。高校球児たちの熱い姿を見ることがたまらなく好きと語ってくれる番匠さん。信じられないようなドラマが目の前で繰り広げられるその景色に、自分自身にもいつの日かそんな場面が来るのかも…と想像を膨らませている、というロマンティックな一面も取材させていただきました!

伝統ある品には愛されてきた歴史がある

株式会社ナガサワ文具センター NAGASAWA PenStyle-DEN 店長／河合 学さん

大阪にあるナガサワショップでもスタッフをしていたことがあるという河合さんは、現在三宮のショップ店長。職場が変われば売れるものも変わるそうで、神戸では色味であればゴールドよりもシルバー、流行のものよりもベーシックな定番の一品。モダンでクラシカルなものを好む人が多い傾向が見えてきたそう。河合さんはそうした傾向を活かした神戸らしい売り場づくり、バイヤー業などこなしているんだそうですよ。元々、ご自身もクラシカルなものやベーシックな雰囲気がお好きだったそうで、特に今の職場では意識的に神戸風のアイテムを取り入れたファッションを楽しんでいるんだとか。“万年筆はドイツ製のもの、ファッションアイテムではイギリス製のもの…と、伝統ある国々が得意とし製品化し続けてきた本当に良いものがとても魅力的です”話してくださいました。上質なものだからこそ、長く使い続けるための工夫も必須で、ファッションアイテムの手入れにもこだわりが…秋冬の季節には、特に帰宅後すぐの洋服のブラッシングは欠かさず、シャツのアイロンがけも、自分で手掛けているのだそうです。リペアしつつ大切にアイテムを扱っている河合さん、とても素敵です。

かっこいいパパ!を支えるものは…

株式会社ファミリア 商品部キャラクター課 課長／林 良一さん

個性的なアイテムを着こなす林さんのお洒落な装いは、いくつかのアドバイスと、こだわりポイントに基づいたオリジナル。ポイントごとにお話を聞かせていただきました。1つめのポイントはお嬢様2人からのアドバイス。娘さんからのアドバイスは、時としてファッションだけでなくお仕事にも、とっても役立つんだそうですよ。2つめのポイントは、奥様からのアドバイス。大学生時代からヨットを趣味にしているという林さんは、カジュアルやスポーティなスタイルがお好きだったそうですが、最近の装いはクラシカルなスタイル好きな奥様の影響も大きいのだとか。3つめのポイントは、昔からは好きだというブーツスタイル。最近、取り入れる人も増えはじめているようですが、林さんにとっては昔馴染みのマイスタイル。4つめのポイントはお洋服のお手入れ。傷みが出ないように靴は毎日同じものを続けて履かないようにし、秋冬の洋服は特に丁寧なブラッシングを施す、さらにお気に入りの一着は専用洗剤で手洗いをする…などなどアパレル業界の知識と、手間暇を惜しまない手入れを。5つめのポイントは、自分好みのブランドを持つこと。以前の居住先でもあったベルギーには、繊細なデザインを施されたハイブランドが多く、魅力たっぷりのアイテムが見つかるのだとか。またベルギーや、出張で赴いた海外のビジネスマンが持ち合わせる色使いのセンスや、チープなものをキレイに着こなす技が、林さんのファッションの参考になっているんだそうです。様々な要素を組み合わせて、自分らしいスタイルを築かれている様子が素敵ですね。

3パターンのビジネスウェアを着こなして

株式会社イスズベーカリー　取締役製造部長／井筒 大輔さん

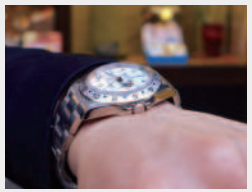
早朝4時から始まるパンの製造と共にスタートする井筒さんの日常は、工場での作業やイスズベーカリーの顔として出席する記者会見まで、基本的にはコックコートで過ごすことが多いそう。本日は、定番の白いコックコート、井筒さんが会長を務める“パンの街、神戸”をPRするため店舗の垣根なく活動する“KOBEパンプロジェクトユニフォーム”の青いコックコート、そして会議などの場で装うスーツ姿のスリーショットを取材させていただきました。場面に応じて装いを変えることで、気分も切り替えて、お仕事に臨んでいるのだそうです。様々な業務内容でお忙しいはずですが、早めの時間に終えた仕事の後は、趣味のテニスに打ち込むのだとか。スポーツマンらしい爽やかな印象は、こうした健康的なライフスタイルから醸し出されるものだったんですね、そんな井筒さんの羨ましいお悩みは、背が高く肩もがっしりしているため、ぴったりサイズの洋服を見つけることが難しいというもの。服はこだわらないとお話ししてくださいましたが、そんなお悩みからサイズの合うものがあれば購入に至ることも多いそうで、ジャストフィットのスーツ姿に思わず納得です。

腕につけられているのはバンデルという話題のアイテム。アスリートに人気のこの一品は体のバランスを保つそうで、体調にも差が出るとか。

まごころのこもった贈り物を装って

龜井堂総本店／松井 隆昌さん

立ち姿や装いから溢れ出る清潔感が印象的な松井さんは、老舗菓子店の製造販売から営業もこなすビジネスマン。歴史あるお菓子は企業の周年記念品などに選ばれることが多く、そんな期待度の高い商談に臨むために、松井さんは日頃からキチンと感のある装いに心を配っているんだとか。この日のネイビージャケットとグレーのネクタイのスタイルにもそんな心配りが溢れていました。ネクタイにあしらわれているのは、近年ブームが再燃しているというタイバー。こちらは奥様からのプレゼントだそうで、松井さんがお好きなブランド“ポールスミス”の一品。そして腕時計は、お父様から「時間を守れる人間になれるよう」と願いを込めて、成人式の際に贈られたものをずっと愛用し続けているものだそう。様々な想いを纏って、お仕事に臨む姿が素敵ですね。



人生のハレの場面に立ち会い続けるビジネスマン

ANAクラウンプラザホテル神戸 ウエディングマネージャー／森 雅裕さん

「ありがとう」と言われることに特別な喜びを感じて、森さんが選んだ道はホテルマン。専門学校時代にアルバイトで勤め始めたANAクラウンプラザホテル(前新神戸オリエンタルホテル) に就職し、正式に配属されたのは宴会サービスやバーのセクション。26歳で現在と同じウエディングセクションに配属され、一旦は人生に1度、どうしても経験したかったという住宅営業の仕事に転職するも、やはり水が合うANAクラウンプラザホテルへ戻って現在に至るそう。森さんにとっての装いは、期待度が高く、いずれも緊張感あるハレの場において、クライアントにいかに安心感を与え、気持ちよくサービスを受けてもらえるか…というテーマの一端を担うもの。就職する前は、コミック“クローズ”の登場人物が着るような、ハードな印象のレーザーアイテムを取り入れたアメカジがお好きだったそうですが、今ではすっかりスーツ党。胸にはポケットチーフを欠かさない、スマートなスタイルがすっかり定番なんだとか。また、「身に着けているものの中には頂き物も多い…」というお話通り、手元を飾るカフスは、クライアントさんからのプレゼントの一品。そしてステーショナリー好きの森さんが愛用しているLAMMYのペンは、一度退職をした際に同僚から贈られたもの。ある日、先輩社員の持ち物に「いいなぁ」と呟いたワンシーンを記憶していた同僚からの心憎いプレゼントだったそうですよ。

専門分野はハンドバッグ!スペシャリストの装い

株式会社 そごう・西武 そごう神戸店 副店長／阿部 正弘さん

1年半前に東京から異動があり現在の勤務先へ配属されたという阿部さんは、すでに神戸市内のたくさんの方と仲が良く、馴染みの土地である横浜と、現居住地である神戸の相似点に注目し、2つの土地をつなぐ架け橋的な活動を始めていると言うアクティブなかた。今ではもはや、地域密着イメージを持たれることもあるそうですが、本来は、百貨店入社以来の配属先である婦人ハンドバッグの新鮮な売り場を維持するために、海外への買い付け、VMDや、自ら売り場に立つなど、様々な業務をこなす世界を股にかけるハンドバッグのスペシャリスト。とくに、たくさんのユーザーの期待に沿えるような国内初登場のブランドを紹介するバイヤー業務は責任も大きいもの。タンナー（レザーを鞣(なめ)す工場）の視察でレザーの品質や彩色、加工された商品の機能性など、知識と経験で見極めてこられたんだとか。そんな阿部さんのこの日の装いは、自社ブランドである“リミテッドエディション”のジャケット&パンツと、常時50～60本を手もとにコレクションしているという鞄の中から、特に今期イチオシのものをコーディネートした【ネイビー系×ブラウン系】を基調としたスマートなスタイル。“リミテッドエディション”は、素材の8割をイタリアで仕入れ、機能性の高い仕上げを得意とする国内の工場で加工したもの。アイデアと洒落っ気のつまったジャケットの見ごろはダウン素材になっており、また、消耗早くなりがちな袖の部分はナイロン素材で仕上げた使い勝手の良い逸品なんだそうですよ。お仕事で養った、目利きを活かした装いが素敵ですね。

お洒落心の足し算と引き算

神戸商工会議所 常務理事／安田 義秀さん(写真左)

神戸商工会議所 産業部主査／佐々木 章生さん(写真右)

取材日の月曜日は、お仕事柄急な用件が入ることが多いそうで、「今日は少しかしこまった装いなんですよ」と話してくださった安田さん。流行のプリント柄のネクタイをポイントにした、シックな装いを撮影させていただきました。奥様がパッチワークを楽しまれることもあり、少しリラックスできる週末には手作りのポケットチーフをあしらうことも多いんだそうですよ。クラシカルな装いが印象的な佐々木さんのこだわりはポケットチーフとネクタイの色合わせだそうで、本日は暖かそうなジャケットと相性の良いパープル系でコーディネート。この色合わせ技、以前、お仕事の中で初音ミクをプロデュースされたクリプトン・フューチャーメディアの伊藤博之社長と同席した際にはミクカラーであるグリーンでコーディネートされたこともあるそう。ビジネスシーンの中にも遊び心をプラスして臨む姿が素敵ですね。最後にポケットチーフを日ごろからご愛用のお二人にポケットチーフについて伺ったところ、「少し目立つアイテムですが恥ずかしがらず思い切って装うことが大事」と語ってくださいました。

服装の持つ影響力

上原成商事株式会社 エネルギー直売部 大阪支店 エネルギー直販課 課長／小宮 正之さん

小宮さんが勤める会社は創業70年、エネルギー資源や建築資材などを扱う老舗商社。20年前の入社当時、歴史ある社風の中ではスーツが鉄則、白シャツに黒い靴下などなど…キチンとした服装が良しとされ、硬派な印象はあれど、お洒落心やカジュアルな雰囲気が入り込む余地はなかったそう。上司に怒られながらもそんな社風に挑戦するように、そっとカラーシャツを取り入れてみたり、ジャケットパンツで出社したりと少しずつ改革を続けてきた甲斐あって、今では後輩社員にもジャケパン党が増え、硬派な上司たちも徐々に服装の幅が広がってきたんだそうですよ。クライアントさんの中にもそうした影響力が及んでいて、「小宮さんの服装に似てきたね、と同僚から言われました。」と話されることもあったのだとか。小学校時代に、もうすでにDCブランドへの憧れが芽生え、ご両親が背中を押してくれたこともあって現在の小宮さんのスタイルが確立されてきたそう。いつか聞いた「流行に伴う変化が分かりやすいパンツの形さえトレンドを抑えていれば、他のアイテムは定番でOK」という言葉の通り、手持ちのファッションアイテムの中で一番数が多いのは“パンツ”だそうで、スーツに関してもまた、レディメイドであっても裾幅は納得のいく形にリメイクされるんだそう。周囲にもいつのまにか受け入れられていくという好感度の高いファッションスタイルは、小宮さんセンスはもちろん、生活習慣だからこそのナチュラルさゆえ、なのかもしれませんね!

お洒落心が彩るシンプルスタイル

株式会社 アットグロウ 代表取締役／有田 次実さん

有田さんが携わる製菓業界には、衛生面で、他業種よりも少し厳しい暗黙のファッションルールがあるそうで、指輪や腕時計はつけない&装いはできるだけシンプルなものを選ぶ…この2つが重んじられているそう。Simple is bestという言葉の通り、ネクタイをはじめ装飾品はできるだけつけないという有田さんの装いはとてもスマートな印象です。ただ、単純にシンプルなだけではなく、ネクタイをつけない代わりにとあしらったポケットチーフの清潔感、フィット感あるスーツのキチンとした印象、装飾品がつけられなくても洒落っ気を効かせることのできるシャツの袖口のネーム刺繍、好きな色かつパワーカラーであるグリーンのペン等々…ルールを守りつつ地味になりすぎない、装いを楽しむための有田さん流テクニックが効いたスタイルが素敵です。スイーツの企画、プロデュース、ネーミングまでこなすアイデアマンだからこそのスタイルなのかもしれませんね。

顔色が暗くならないようにシャツの色を心配り

できるだけシンプルなものを…と選ばれた腕時計。“ピアジェ”のアンティークでヒスイとオニキスを使った希少品

トレンド+自分らしさ=マイスタイル!

株式会社 大丸松坂屋百貨店 大丸 神戸店 お得意様営業部 第3営業／八十島 和樹さん

ご職業柄、スケジュールによって毎日かなり変化のある装いを使い分けるという八十島さん。顧客さんのご自宅訪問に訪問する機会が多く、家族のような距離感で接する中で、特に気を配っていることは清潔感、それから20代らしいフレッシュさと、対話する相手のカラーに合わせた服選びなんだとか。この日は、フェイバリットカラーのネイビーにブラックを合わせた色味を基調に、デニム風シャツや小物で少しカジュアルに魅せた装いで取材に応じてくれました。もともと服好きだったという八十島さんは、学生時代にデニムショップでのアルバイトを経験し、就職先はアパレル関係を…と希望されて現在に至るそう。その当時は特に、就職活動のためもあってファッション雑誌のチェックや研究が必須、それから数年後の現在でも、海外ドラマや映画からお洒落のヒント探しを続けているんだとか。いいな!と思うスタイルを映像の中で見つけたら、色遣いや形の特徴をたよりにショッピングへ…イメージ通りのアイテムを見つける為に1日中街を歩きまわってしまう!なんてこともあるそうですよ。最後に、服好きサンならではのお買い物のコツは、ファストファッションを取り入れながら、なるべく低予算で理想のスタイルを実現させること!ただしサイズ感には妥協せず、装いの色味は3色までに抑えるファッションの定番に則ること、がポイントにです。と教えていただきました。

匠の職人技を支える道具=(イコール)ビジネスマンのビジネスライフを支える装い

株式会社 大丸松坂屋百貨店 大丸神戸店 営業推進部スタッフ 店舗戦略担当／衣川 潔さん

伝統工芸などの職人さんが、自らの手に馴染んだ道具を大切にするように、日々装いに手をかけてスムーズに、滞りなくビジネスライフを送るのは同じこと、と語ってくださったのは大丸神戸店にお勤めの衣川さん。銀釦が目を惹く“ラルフローレン”のネイビージャケットも、6〜7年着用している一着だそうですが、オーセンティックなセレクト眼と、手入れのせいか、全く時代遅れを感じさせません。また、履きこなすことが難しいとされているビットモカシンローファーは、チェック柄の赤い靴下のインパクトとチェック柄生地のパンツに綺麗に馴染んでコーディネートされています。こうした現在のスタイルは、突然完成したものではないそう「高校時代までは恥ずかしいくらにダサかった(本人談)」服装への関心が、大きく変化したのはご自身の大学生時代。周囲に影響されながら、多くの失敗を経験しつつ、現在は世代感覚ある服装を選び、愉しむことができるようになったんだそう。「ファッション指南書などで必須とされる“一つのコーディネートに色味は3色まで”というセオリーを絶対視するつもりはありません。例えば“柄物×柄物”のような、関西っぽい装い、そして自分にしかできない装いをしていたいですね」という衣川さんの想いは、自分の感覚を極限まで表したまさに、職人のような完成された装いです。

会話のきっかけを与えてくれる装い

株式会社 大丸松坂屋百貨店 大丸神戸店 リビング担当 バイヤー／井上 勝裕さん

百貨店の生活雑貨全般を仕入れから担当されているという井上さん。職業柄、デザイナーやクリエイターなどお洒落な人と接することが多く、また感性が問われる場面もあるため、装いの清潔感はもちろん、小物などによるエレガントさや遊び心の演出も、常々心がけていらっしゃるんだそうです。この日は勤務後に会食の予定があるとのことで、普段よりもベーシック、かつシックに仕上げたというスタイルを取材しました。以前、カジュアルなパーティーでのフォーマル過ぎる装いで、失敗された経験をお持ちだという井上さんが話してくださったのは、「適度なドレスダウンは重要。接する相手に威圧感を与えてしまっては“過ぎたるは及ばざるが如し”。高級なものと廉価なもの、TPOや分相応…自分なりの美意識と節度、品性のバランス感覚を発揮できるかは自分自身のセンスにかかっている。」というファッションに対してのとても真摯な姿勢。トークのネタにとあしらわれたフラワーホールの小花のラペルピンや、ファストファッションで入手したというオックスフォードシャツなど、絶妙に計算された、リラックス感あるこの日の装いは、まさに井上さんのお言葉通りのもの。モノトーンの装いに紫色のラペルピンをチョイスした黒×紫という難易度の高い色遣いも、井上さんのセンスによってオンリーワンのスタイルを完成させていました。

元テニスインストラクターさんが指南する洒脱なファッションをお届け!

Men's apparel Adam(メンズアパレル アダム) 店長／橋本 友宏さん

元町3丁目にあるメンズアパレル『Adam(アダム) 』は、品揃えの8割をイタリア製インポートが占め、“LEON(レオン)”世代の男性客が足を運ぶ老舗店。ここで3代目として現在、店長を勤める橋本さんは、約3年前まではテニスのインストラクターだったそうで、その当時は「一生ジャージだけで生きていける。」と思っていたほど、洋服にはあまり関心がなかったんだとか。御父様から代替わりした当初は、インポートアイテムの奇抜ともとれる色遣いなどに抵抗を感じることもあったそうですが、3年たった今では、その良しあしを消費者目線から語れる頼りになるファッションアドバイザー、若い世代のお客さんも取り込むべくご活躍中です。この日の装いは、TVドラマ“相棒”の成宮さんをイメージしたジーンズとジレをポイントにしたモノトーン調のスタイル。生地からオーダーしたというジャケットとジレは、体にすいつくようにフィットした、まさに“相棒”のような存在 (ウマイッ! by橋本さん)。さらにチラ見せ感がたまらないトラマロッサのイニシャル入りジーンズのピンの『T H』の文字は、ご自身のイニシャルでもあり…そして…愛する阪神タイガースと同じイニシャルでもあり……さらには!!あえて阪神タイガース(自分とも)と同じイニシャルになるようにと命名したという愛息子様とも同じだという…。。。(息切れするほど熱く語ってくださいました)気合十分のワンポイント!!!!アパレル店店長を務めるにあたり、突然ファッションに気合を入れ始めたころには、旧友から「どうしたん!?」などと驚かれることが多かったそう。今なお、キメファッションには気恥ずかしさも残るんだそうですが、それでも肌で感じるお洒落心の楽しさ、ウキウキ感は、様々な人に体験してもらいたい価値あるものです。と笑顔で語っていただきました。

お洒落心が呼ぶhappy

マスヤ株式会社 常務取締役／近藤 泰通さん

女性向けのアパレルアイテムを手がける会社に勤める以上、女性目線にも耐えられる服装選びを心がけているという近藤さん。この日の装いは、スーツに冴えたアイスブルーのストールを合わせ、お似合いのハットをプラスしたコーディネート。ご自身の肌色と相性のピッタリのストールは奥様からプレゼントされたものだそう。近藤さんは、頂き物、特に身に付けるものはタンスの肥やしになって、いつの間にか流行遅れになってしまわないように…大切だからといってしまい込むのではなく、できるだけすぐに身に付けるようにしているのだそう。「プレゼントされたものを着こなすことでお洒落心も高まりますよ。」と、ファッションを楽しめば訪れるhappyな気持ちについて、笑顔で話してくださる姿がとてもすてきでした。

ハットを手にしたポージングをしていただきました。
とても決まってますね!

愛すべきブランドとの出会い

マスヤ株式会社 代表取締役社長／近藤 裕重さん

マスヤ株式会社は、大正11年の創業以来、服地販売事業や小売店舗運営を手がける歴史ある会社。同社社長は会社運営だけでなく、元町3丁目の理事長を務め、パワフルに地域貢献や街の活性化に取り組むビジネスマンです。昔からお好きだったというクラシカルな雰囲気が魅力の“エンポリオアルマーニ”のアイテムを、ほとんど全身に身に纏うようになったのは近藤さんが40代の頃。柔らかな生地がストンと描く落ち感は、他のブランドにはどうしても見つけることのできない貴重な質感があるんだとか。ご自身にあった44サイズは国内で特に人気のサイズのため、いつもシーズン初期に新作をチェック。好みのものは早めに手に入れるようにしているそうですよ。そんな近藤さんのコレクションアイテムはネクタイ代わりのスカーフ。色味やデザイン、素材の違うものを集めるうちに30種類近く人気の達したというコレクションの中から、この日はモノトーンの柄物の一本をチョイス。淡いパープルのシャツとのコーディネートがエレガントな雰囲気にまとまっています。10年以上の御用達ブランドだからこその流石の着こなしですね。

作り手の気配を感じる愛すべきファッションアイテム

株式会社そごう・西武 そごう神戸店／佐々木 能樹さん

出身地 東京の佐々木さんは、現在、単身赴任中。引っ越しに際し、佐々木さんがこだわったのは“ウォークインクローゼット”なんだとか。学生時代はアメカジが好きで、アパレル店でアルバイト経験を積んだという生粋の洋服好き、佐々木さんのコレクションは、靴だけでも40足以上、標準装備のチーフは40枚以上、ネクタイに至っては150本!と、小物類のコレクションを伺うだけでも、かなりのアイテム数…“ウォークインクローゼット”が必須条件だったというのも納得です。由緒ある…ストーリー性のあるアイテムは魅力的、と語ってくださった佐々木さんの本日の装いは、ソフトな質感と色味に、柔らかな統一感が感じられる大人の着こなし。1964年創業の伊ブランド『バルバ』のシャツの優しいイエローをネクタイの差し色が引き締めています。『クロケット&ジョーンズ』のタッセルローファーと、美脚効果に定評のある『インコテックス』のパンツの組み合わせも素敵ですね。ブラウンのジャケットは良質なことで知られる『カノニコ』の伊製の生地を大阪のテーラー　リングジャケットで縫製したもの。インポート生地×地元関西のアイテムをミックスした装いは、話題性にも事欠きません。最後に教えていただいた装いの秘訣、それは「体型管理は洋服の作り手さんに対するリスペクトでもある」そうで、その体型管理を担うのが10年来のご趣味だという自転車。「次はトライアスロンに挑戦したいですね」と笑顔で語ってくださいました。

個性的なアイテムを束ねるのは自分だけの感覚

グラスファクトリー神戸店 店長／佐野 亮介さん

トアロード沿いにある『グラスファクトリー』は、トータルコーディネートを完成させるアイウェアを提案してくれるファッション好き御用達のお店。出迎えてくれたのは、本日のスタイリッシュマン、店長職を務める佐野さんです。3ピーススーツとシャツは、大阪にあるテーラー『ilviletta(イルビレッタ)』で生地から選んでオーダーメイドしたものだそう。ダブルに仕立てられたジャケットは近年のリバイバルトレンド。フィット感マストの難易度高めのアイテムですが、単調になってしまいがちなワントーンコーデのアクセントになっています。アンクル丈に仕立てられたパンツも素敵ですね。シンプルにまとめられたコーディネートに、佐野さんらしい雰囲気をプラスしているのが、アイウェアはもちろんのこと、Vゾーン、手元を飾る小物類。眼鏡好きサンらしい眼鏡モチーフのアイテムや、昔から手に入れたいと狙っていた一品だという仏製『アラン・シルベスタイン』の腕時計など、少し個性的なアイテムもすっかりコーディネートに馴染ませる佐野さんのセンスが流石です。そして「見えてなくても着けたくて…」と話していただいたサスペンダーとベストの背生地は、今日のコーディネートを支える影の立役者。佐野さんのお洒落心を人知れず盛り上げてくれているんだそうですよ。

ご両親譲りのお洒落心

もとぶら(株式会社くしや商店)代表取締役／森 務さん

『株式会社くしや商店』は、“もとぶら”という名称を商標登録、店舗名『「もとぶら』として創業から100年以上続く老舗化粧品店。オリジナル商品の展開と化粧品のネット通販、さらには元町5丁目を元気にするための活動も精力的に行う元気な会社です。お店の場所柄、顧客さんから「(商店街の入り口から)ちょっと遠いね」と言われていたこともあり、インターネットのない時代から電話通販を行っていたそうで、現在はそのノウハウを活かしたスタイルで運営。先駆者的なビジネス観を持ってお仕事に臨んでいるのはアイデアマンの3代目 森さんです。2代目であった御両親は、接客業務もこなしていたため昔からとてもお洒落だったそうで、お金をかけているわけではないけれど、スカーフなどワンポイントアクセントをプラスして、装いを楽しむお母様の姿は、森さんの幼い日の記憶として、今なお鮮明に残っているんだそう。小学生時代には、当時珍しいアスコットタイでドレスアップしていたという森さんのファッション歴は筋金入り、今では男性には少し手が出にくいアクセサリーを日々のスタイルに上手く取り入れるファッション巧者です。大学生時代には、トラディショナルな雰囲気の格好がお好きだったという森さんは、流行に乗る時代を経て、いつしか“あまり人と同じものは身に付けたくない”という想いを持つに至ったそうで、この日も、ご自身お気に入りブランド、関西では梅田と、難波にしか直営店がないというスイスの“ビクトリアノックス”のジャケットとシャツをチョイス。スラリとした長身に、黒×レッドグラデーションのスッキリとした色合いがとてもお似合いでした!

着こなし最大の秘訣それは出会う人への敬意

株式会社 大丸松坂屋百貨店 大丸 神戸店 営業2部 スタッフ／清村 育男さん

・TPOをきちんと意識すること
・礼節を重んじる
・サイズを見極める

この3つが装いのポイント、と語ってくれたのは英国紳士を思わせる着こなしが素敵な清村さんです。外商顧客への催し物をはじめ、宝飾や呉服などのフロアを担当する清村さん。セレブ御用達売り場の担当、また、クレーム対応などの業務をこなす必要もあるため、清潔感は必須なんだとか。相手に敬意を表するつもりでセレクトするという装いからは、まさに紳士のオーラが…。99’から3年間、百貨店のイギリス駐在員を務めたことで、元々お好きだったという英国調の装いは、さらに本格化したのだそうで、今ではビジネスウェアにおけるシャツは全て“ダブルカフス”。ベスト以外はオーダーしているというダブル仕立てスーツのグレンチェック柄や、ウッディなボタン…など、一つ一つが清村さんらしいスタイルを完成させています。“紳士服テーラーを営んでいた父の姿を小さいころから見ていた”経験に導かれ、現在に至った清村さんだけのマイスタイル。一般的なビジネスウェアとは一線を画す着こなしには、様々なファッションの新ヒントを見つけることができそうです。

着こなし最大の秘訣それは出会う人への敬意

株式会社バリューブランニング マーチャンダイジング部 企画・開発3課／切澤 正樹さん

店頭の特徴的なマネキンが記憶に残る美脚ストレッチパンツ専門店『B3(ビースリー)』。ここのメンズ専門直営店として2013年、OPENした『ビースリーMEN』の切澤さんを取材しました。『ビースリーMEN』は、女性用のストレッチパンツ専門店『ビースリー』のお客様からの、「旦那さん用にメンズを作って欲しい」との声がきっかけで企画が開始。それまでほとんど市場に出回っていなかったメンズのストレッチパンツに興味があった切澤さんは、メンズ企画の大役に抜擢され、今では、同社ブランドのメンズ製品全ての企画を手掛けるようになったという“メンズストレッチパンツ”のエキスパートこの日の装いは、ご自身がデザインしたストレッチジーンズ1作目を、ジャケットと合わせたキレイめなスタイル。少なめに抑えた色味には、柄物をプラスして地味になりすぎないようにまとめること。そして、エレガントな雰囲気にまとめたい時の締め色にはブラックをチョイスする。という切澤さんのマイルール通りの大人の華やかさが素敵な装いです。デザインを手がけるパンツはもちろんのこと、もう一つ愛着があるというのが、可愛いデザインが多く、価格もお手頃な“靴下”。装いによっては全く見えない時もあるけれど、お気に入りのものを身につけるだけで気分が上がるアイテムなんだそうですよ。気合を入れて仕事に臨みたい時に、ぜひ参考にしてみたいアイデアですね。学生のころには“stussy”が好きで、髪型はアフロ、フード付きパーカーのフードを決して脱がない…というかなりトガッた格好もされてきた(!)という切澤さんですが、年齢を重ねるにつれジャケット、さらには相性の良いキレイめパンツの必要性を強く感じるようになり昨今のスタイルが確立されたのだとか。現在のファッションの参考は、ショップに来店される遊び心ある“レオン世代”の客層に合わせるように、見ることが多くなったという雑誌やスナップなどだそう。爪先から足元まで全ての要素を取り入れるのではなく、色のバランスや差し色について…などなどピンポイントで参考にするのがファッション成功の秘訣のようです。

色(カラー)を制する着こなし

株式会社そごう・西武 そごう神戸店／栂野 康二さん

入社して以来、約35年間、靴売り場を皮切りに、婦人服、現在の紳士スポーツ用品、子供服…など、様々な売り場において百貨店業務一筋に仕事をこなしてこられた栂野さん。昨今の百貨店で、身を持って感じるというのが紳士服の“ ビジネスウェアとしてのジャケットの地位向上”。夏場のクールビズが当たり前になるにつれて、徐々に冬場のビジネスウェアにも変化が現れたのだそうで、ジャケットの売り場面積もずいぶん大きくなったようです。本日はそのジャケットスタイルの栂野さんを取材しました。自社ブランドであるという“ リミテッドエディション ”のジャケットは顔色を明るく見せてくれるような、適度に明るいブルーの一着。ストライプシャツと、タイまで見事にワントーンでまとめられた栂野さん流のスタイリングが印象的です。「(一言で青といっても赤みがかった青や、黄色味が強い青、ほぼ緑の青まで様々あるけれど、)そのトーンを合わせるがスタイルをスッキリ見せる鍵。」なんだそうですよ。最後に、これからジャケットを新調される方へのメッセージもいただきました。「大きめのサイズは楽に感じるかもしれませんが、現在の中高を見ても大き目サイズは×。フィット感あるものを選ぶことで着こなしは劇的に変わりますよ。」

洋装文化発信地 神戸で 3世代続く老舗洋服店 店主に聴く

Men's apparel Adam(メンズアパレル アダム) 代表取締役／李 博彰さん

イタリアをはじめとする世界各国のインポートアイテムを扱う洋品店の2代目を務める李さん。3世代で通い続ける客もいるという老舗内にはインポートアイテム好きも思わず唸るマニアックなものから、若者も必見のトレンドアイテムまでが所狭しと並んでいます。物心つくころから洋服に囲まれて育った洋服のベテランのポリシーは「見てよし、着て楽（らく）」。何よりもまずは装うことの楽しさ、それから忘れてはいけないのが楽(らく)さ。だと語っていただきました。この日取材した装いは、スーツのレイヤードにニットベストをチョイスし、ムートンモカシンを合わせたスタイル。「年寄りの防寒対策だよ!」と笑顔で語ってくださいましたが、服の特性を活かした自分らしい着こなしは、とても素敵でした。インポートアイテムを中心に扱っていながら、決してイタリア至上主義に傾倒するのではなく、やはり最上なのは自分らしいスタイル。西洋人と東洋人の体型の違いがあるのはもちろんのこと、過ごす気候も違うのだから、というお言葉は何とも安心感あるアドバイスですね。

EVENT REPORT

イベントレポート

GLASS FACTORY 代表取締役／乾 昌行さん

英国紳士にとってのカントリーファッションであるニッカボッカを着こなす乾さん。自転車に乗る際や、ゴルフを楽しむときにも動きやすい優れものなのだそうです。本日は濃紺×ブラウン、をベースにコーディネート。胸ポケットからちらりとのぞく鮮やかなブルーのメガネフレームもおしゃれです。ハンチングにあしらわれたピンズがキュートです。

三浦 健さん（左）　井口 信吾さん（右）

好きな色がグリーンやブルーかな、と話してくださった三浦さんは、本日もグリーンとブルーを中心にコーディネート。丸いフチのメガネのクラシックな印象も素敵です。秋らしい気候に合わせてブラウン系でコーディネートした井口さんは“今日は、蝶ネクタイに初挑戦の記念すべき日”と笑顔で語ってくださいました。新しいものを取り入れ続けるスタイルがとても素敵です。

コラムニスト／Tonyさん

ファッションのコラムニストとしての著作を持つTonyさんは、学生時代から学生服をミリ単位で調整し装うことを楽しんでいたという生粋のファッショニスタ。本日の装いは“破綻してそうで破綻していない”ところを狙ってコーディネートされたそう。色合いの綺麗なジャケットにさらに異素材、色合いをプラスした、Vゾーンのレイヤードは必見です。色彩感覚を養いたければ美術館へ!というお言葉通りのアーティスティックな装いが素敵ですね。

河合 正人 花事務所／河合 正人さん

神戸ブランメル倶楽部の運営委員のお1人、河合さんの本日の装いは明るめのブラウンのスウェードジャケットに、シャツとスカーフを合わせた、どこか華やいだ雰囲気のあるコーディネート。ツイードがテーマのイベントに、“来年はスウェードもいかが?”とあえてメッセージ性あるチョイスをされたそう。

門柳 裕士さん

英国風スタイルがお好みだという門柳さん。上質なコートのポケットにさりげなく革製の手袋が…とてもお洒落です。

小宮 正之さん

ネイビーのニットジャケットと暖かそうなストール。ボリューム感あるコーディネートをホワイトのインナーで引き締めた素敵なスタイルです。

奥田 智生さん

地味になりがちなモノトーンスタイルも、大胆なストール使いでこんなにお洒落に。全体のサイズ感もキマッています。

浦塚 茂雄さん

チェック柄のジャケットと鮮やかな赤いニットが会場でも目立っていた浦塚さん。ジーンズをチョイスしてカジュアルな印象に。

長岡 隆一郎さん

パールのラペルピンや、ネクタイ、ジャケットの襟元の少し光沢がある素材をうまく着こなしていた長岡さん。

御前 政貴さん

ネイビー×ブラックのコーディネートがクールな雰囲気の御前さん。大人感あるナチュラルなツーブロックのヘアスタイルとメガネが顔周りを清潔感あふれる印象に。

衣川 潔さん

柄物を多く取り入れたスタイルを着こなしていた衣川さん。柄のあるものも、ブラウン系のトーンでまとめることで統一感あるお洒落なスタイルに。

辻井 良樹さん

白のジャケットにグリーンのインナーを合わせてコーディネートした辻井さん。寒色系の装いに暖かい色合いのバッグをプラスして秋冬らしく。

山本 六甲さん

カジュアルな雰囲気になりがちなイエローのパンツを、シックに着こなす山本さん。マットな質感のジャケットが全体の雰囲気をクラシカルにまとめています。

加茂 春樹さん

小杉 佑介さん

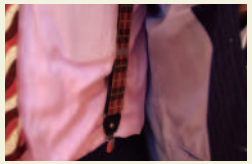
神戸スタイリッシュトーク

今年創刊60周年を迎えた「MEN' S CLUB」編集長、戸賀敬城さんに「自分らしくカッコよく生きるには」をテーマに熱く語っていただきました。
（と　き）平成26年11月24日（月祝）14時～
（ところ）神戸国際会館セミナーハウス
9階大会場
会場は事前募集で集まった男性150名でいっぱいになった。自らも雑誌にたびたび登場する戸賀編集長のトークに熱心に耳を傾けた。戸賀編集長によるファッションチェックもあり、会場は熱気に包まれた。

色合いもコストも緩急つけて…メリハリある装い

自営業／浜岡 正典さん

ブロックチェック柄の帽子と変形レジメンタルのネクタイ。個性的なアイテムをさらりと着こなす浜岡さんのご職業は、おもわず納得の洋服店。赤系の装いと、温かい色合いのブラウンの靴の組み合わせに白いメガネフレームをさし色にした色使いも素敵です。「今日のファッションイメージは“タージン”、そして帽子はハゲ隠し」と、笑顔で語ってくださいました。



今年からはまっているというサスペンダー。柄物の一品を見つけるのはなかなか難しいんだそう。

アイテムごとの個性を効果的に組み合わせ!

STUDIO KIICHI（スタジオキイチ） 代表取締役／片山 喜市郎さん

港町、神戸を象徴するイカリマークをあしらった姫路（龍野）産レザー製品の企画、兼製造販売をこなし、さらにデザイナーでもある片山さん。この日の装いは、ヘリンボーン生地の暖かそうなジャケットに、TOMFORDの眼鏡とペイズリー柄のネクタイを合わせた知的かつクラシカルな印象のスタイル。手元を飾る時計は、“ロレックスのディフュージョンブランドとして知られるチュードル”の60年代アンティーク品。「流行はあえて追わないのが自分好み」と語ってくださる片山さんお気に入りの逸品だそう。センスを活かしたご職業につく方ならではの、玄人感ある装いが素敵ですね。

サラリーマン／内藤 隆行さん

スタイルと姿勢の良さが目立っていた内藤さん。今ではダンサーさんやモデルさんに間違われることも多いとか。奥様のアドバイスで取り入れた細身のパンツが素敵ですね。

株式会社神戸設計ルーム 会長／大里 英一

この日は20年ぶりのデート、と語ってくれた大里さんご夫妻。ご愛用だという帽子が素敵ですね。ダークカラーでまとめた装いの奥様は普段は和装が多いのだとか。今日は久々の洋装で、手作りのペンダントをワンポイントに。

神戸市 産業振興局 経済部 商業課 商業振興係長／井関 和人さん

2度目のご登場の井関さん、休日スタイルで登場していただいた前回とは異なったドレスアップスタイルで。

三宮センター街商業振興会 理事長 ヤマザキイクルセンター／山田 信孝さん

蝶ネクタイは手作りのものなんだそう。ハットとのコンビネーションが決まってますね。

有限会社 北村電気工業 取締役営業部長／北村 宏樹さん

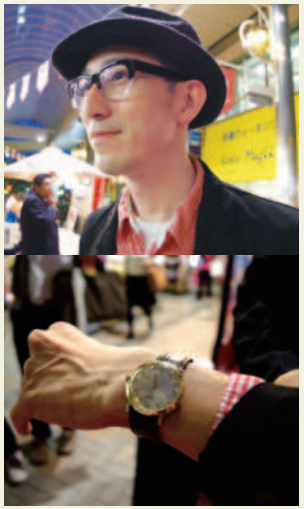
作業服のイメージを持たれがちな職業だからこそ、少しおしゃれに、爽やかな印象になるように心がけて服選びをしていると話してくださった北村さん。ピンクのシャツと国旗柄の時計がキュートな印象ですね。

自営業／松木さん

スリーピーススーツがお似合いの松木さん。ご両親からたしなみとしてのファッション知識を伝えられてきたそうで、チーフの色と時計の文字盤の色合わせなど、心憎い技が光っていました。

有限会社 近藤亭 代表取締役／近藤 弘康さん

素敵な笑顔が印象的な近藤さん。どんなコルクを開けるときにも対応できるようにポケットのたくさんあるソムリエスーツには様々なオープナーが忍ばせてあるんだそうです。また、短いジャケット丈は給仕の際にテーブルにかからないように、という配慮の末のデザインだそう。



医療法人社団医人会 院長 医学博士／譜久山 剛さん

お仕事柄、勤務時間内は白衣で過ごすことが多いだけにプライベートの装いを楽しんでいる、と話してくださった譜久山さん。腕時計はロンジンのアンティーク。アイテムにこだわりを持つスタイルが素敵ですね。

西川さん（写真左）

西川さんは、いろんなジャンルのファッションを攻め感あるスタイルで試したいんだそうで、今日は少しアンティークな装いをチョイス。ジャケットは奥田さんの洋服オーダー先で見つけたというパープルのコーデュロイのジャケット。

奥田さん（写真右）

“あぶない刑事”の装いを参考に探し出したというベストはダブルブレストのこだわりの一品。コーディネートのカナメであるネクタイは、奥田さんが就職活動先にも選んでいたという“三峰(ミツミネ)”のアイテムなんだとか。

英語教師／マークさん

モッズスタイルがお似合いのマークさん、一番寒くなる季節にはタータンチェック柄のマフラーを取り入れたコーディネートを楽しむんだとか。ブリティッシュな色合わせがお洒落ですね。

甲南バール オーナー／溝端 正さん

いきつけのショップでのアドバイスを元にコーディネートすることが多いという溝端さん。爽やかに、そして3歳くらい若く見えるように…というのが服装選びのポイントだとか。スタイルの良さも伴って会場でも目立っているお一人でした。

神戸元町商店街 連合会会長 マルヤ靴店／片山 泰造さん

今日はいつものコーディネートに蝶ネクタイとポケットチーフをプラスして、少しお洒落しました。と話してくださった片山さん。ブルーを基調にすることでビビッドカラーを制した技ありのコーディネート。とてもチャーミングですね!

神戸市長／久元 喜造さん

モトロクワインアベニューに訪れた久元市長。ポケットチーフと真珠のラペルピンでいつもより少しドレスアップ。普段はシンプルで控えめなファッションが好みだそうですが、いつもとちょっと違うアイテムを身に着けると、気持ちも引き締まるんだとか。

神戸市副市長／岡口 憲義さん

「服装にあまりこだわりは無いよ、全部奥様にお任せ!」と語ってくれた岡口副市長ですが、その胸にはポケットチーフが。身につけてみると、好評で、手軽にできることからも、今ではほとんど毎日身につけているそうですよ。

神戸市副市長／玉田 敏郎さん

ラグビー観戦の帰りに来場されたという玉田副市長。暖かそうなチェック生地のスーツと、少しカジュアルな雰囲気のボタンダウンシャツのコーディネートはスポーツ観戦にぴったり。秋冬の季節感を捉えた素敵な装いは奥様からのアドバイス。

日本郵便株式会社 郵便事業本部／尾藤 規夫さん

今日は忘れてしまったけど、チーフを使った装いも多いですよ、と語ってくれた尾藤さん。キチンとした印象のスーツはオーダーのものだそう。

モトロクワインアベニュー

神戸元町六丁目商店街にてワインに合う食と音楽のイベント「モトロクワインアベニュー」開催。会場はフランスの街角をイメージして赤いカーペットに木樽のテーブルとムード満点でした。
（と　き）平成26年10月31日（金）・11月1日（土）
（ところ）元町六丁目商店街

定番カラーのコーディネートがスマートな印象ですね。

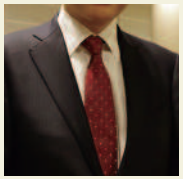
モロゾフ株式会社 代表取締役社長／山口 信二さん

ハイクオリティな装いが会場でも目立っていた山口さん、淡いピンクのボタンダウンシャツとディープレッドのポケットチーフはいずれも少し青味のある色合いで、ネイビースーツとのコーディネートがとても素敵でした。

時計は昔からどうしても欲しかった一品で、とうとう手に入れることのできた思い入れのあるものだそう。お気に入りだというノットカフスと共に、印象的な手元のコーディネートですね。

サラリーマン／西田 正裕さん

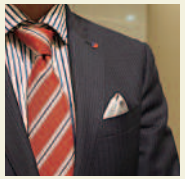
ホワイトシャツで今日は少し手堅い装いです、と語ってくださった西田さん。明るい気分になりたい日にはピンクのシャツをチョイスしたりと、その日の気分やシーンに合わせたコーディネートを楽しまれているんだそう。



手持ちのスーツには黒やダークカラーを多めにして、カジュアルな印象のグレーや明るめのブルーを少し加えて。シーンに合わせたチョイスをされるのだそう。

株式会社 神戸ポートピアホテル 取締役社長／中内 仁さん

ホテルマンとして清潔感ある印象を大切にしていると話してくださった中内さん。写真では少しわかりにくいのですが、プレスの綺麗にあたったシワ一つないスーツパンツに脱帽です。洋服選びには、ショップスタッフさんのアドバイスを取り入れて。



ポケットは場面に応じて、お洒落感を手軽にUPできるアイテム。

伊藤ハム株式会社 管理本部 人事総務部／長田 真哉さん

すっきりとしたフィット感あるスリムなスーツを着こなす長田さん。今日は、神戸でのイベントということで神戸らしいマリンカラーを意識してコーディネートされたそう。強い印象のカラーも見事に馴染んだ技ありの装いですね。

平成26年度 兵庫県商工会議所連合会労働環境対策事業

発行：神戸スタイリッシュデー実行委員会

平成27年3月